慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	Emil Reich氏の史学研究法
Sub Title	
Author	田中, 萃一郎
Publisher	三田学会
Publication year	1909
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.1, No.2 (1909. 3) ,p.145(11)- 176(42)
JaLC DOI	10.14991/001.19090301-0011
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19090301-0011

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

補助稅として土地差增稅を採用せんか、賣買の行はるゝ土地に對しては、負擔を公平にし、其所有者の納稅力に對する負擔を加へ、土地臺帳制度の利益を存じながら、一方に其缺點の一部を補ふを得べし。土地差增稅は今日偶々獨逸に於て、市政府の財源たるに止まると雖も、地租の補助稅として、中央政府の財源とするは、地租が國稅の一に居る國に於て敢て背理の事を以て目す可きに非ざるなり。

Emil Reich 氏の史學研究法

田中萃一郎

(三)

過去數千年來の歷史を達觀するに、波濤重疊して壯觀極りなきも、全人類の歐化てふ潮流のみは明かに本流を爲してゐる。目下十五億以上の人類のうち、十一億は歐洲民族の支配を受けて居るので、歐洲の膨脹、卽ち歐洲的思想、感情、政體の普及運動は西紀前二千年頃小亞、シリア、フェニキア近海の島嶼に濫觴して先づ地中海岸諸國に及ぼし、西紀第十五世紀の末には歐洲全部を包括し、爾來着々としてその步を進め、米濠大陸の全部、阿弗利加、亞細亞の大半を席卷するに至つた。故に歷史は歐化運動の顚末で、この運動は結局全地球に亙ることであらう。歐羅巴は全地球陸地の十三分の一に過ぎぬから、冷靜な歷史家は、歷史と云ふものは主として少數者に就て論述するものであつて分量を問はず、品位に重きを置くものであると、氣附かねばならぬ。而して歐化大運動の淵源をなせる要素は何であるかと云ふに、

その初めは實に何れも涓滴も雷ならぬもので、卽ち(第一)フェニキアその他の文物を基とせる希臘の文明、(第二)羅馬の政體、(第三)ヘブライ敎より出でたる基督敎の三つである。西洋民族通史の本流を爲せる歐化とは、卽ち希臘化、羅馬化、基督敎化の三潮流の湊會した結果である。歐洲幷に歐洲に影響された國を除けば、年代紀と傳記とがある計りで、歷史を有して居らぬ。近頃眞の歷史の範圍に入つた亞細亞の一國、日本は實にその國內の殆んどあらゆる制度文物を歐化したが爲め、初めてかくなし得たのである。上古の希臘が歐羅巴に於けると同じく、歐羅巴は爾餘の大陸に對して惟り歷史的大陸であるのである。ライプニッツは曾て支那を以て東洋の歐羅巴なりと呼び、(Giuseppe Ferrari (1812—76)は支那史と歐洲史との類似の點を擧げやうとしたが支那の文學歷史を研究すればする程、獨逸の哲學者、伊太利の思想家の推論は維持し難くなる。支那は民俗學者、人種學者、人類學者には豐富の材料を供給するが、眞の歷史的民族は俗謠、お伽噺、習慣等の興味あるものに乏しく、その豐富なるは軈て歷史上の事實の少いことを示すものである。

扨、歷史上の一般的事實を生ずる眞の原因を繹ぬると、大體下の如く彙類することが出來る。思ふに歷史の初期に於て最も有力に、その他の時期に於ても極めて勢力あるものは、政治地理的原因 geo-political causes の影響であらう。政治地理的原因とは、約言すれば研究の對象たる國と附近の諸國との地理的狀態を指すので、一國の地形は島嶼でも、半島でも、大陸でも、これのみですべてが決せらるゝのではない、傍近諸國の地形によりて大に左右さるゝのである。島嶼は大陸ほどの影響を他の島嶼に及ぼすことが出來ぬから地球上二番目の大島嶼たるボルネオ幷に地中海上のサルヂニアの如く傍近諸國も亦島嶼であると發達が困難である。クレータ島が久しくその覇權を維持することの出來なかつたのも同じ理由に基くであらう。地理上の影響は單に地理的として研究す可きではない、政治地理的要素として且內外兩面から研究せねばならぬ。穩和な氣候、肥沃な土壤は高度の文明の要件で、交通の利便、鑛物の產出、幷に山脈江河の方向は歷史を作るのである。江河は民族の組織に資し、海洋は政治上商業上の關係を世界的にし、隨て海洋を管制するの國は所謂海國として列强爭圖の間に伍して殺活の權を握り得る。曠野は數ば勇敢なる侵略的遊牧民族を養成するが、かかる遊牧民族なかりしが爲、コロムバ

ヌ以前の北米大陸に見る可きの歴史なく、而して中亜の曠野は數ば帝國を建設し、人類を指導し、自ら歴史を作るの偉人を輩出せしめた(ラッツェル政治地理二一八頁)。天然的國境も亦、歴史上重要なもので、峻嶺、大江、海洋、砂漠、沼澤等の堡障により て攻擊を受くるの危險を免れ得るの國民は、概して萎靡不振の域に陷る。之に反して兩面、三面若しくは四面から何時外寇を受くるかも知らぬ國では、國民の發達は刮目して視る可きものがある。古代のヘブライ民族、フェニキア民族、希臘民族カルタゴ民族、羅馬民族、中古の伊太利都市的諸國家、近代の佛、英、獨等何れも常に境上の守備に汲々として居つたのである。羅馬は軋轢絶えざる諸民族の共住せる半島の中央に位してたので、先づ伊太利を征服し、次で他の地中海岸諸國に及ぼし以てその防備なき都市の爲に境界を定めた。獨逸も亦從來の東、西、南の三方面に加ふるに新に侵擊的海軍政策を執りて英國と衝突の危險を生じ、北方面に防備の必要を招ぐことになつたから、益〻その位地を高むることゝなつた。之に反して各方面から外寇を受くるの危險なき國家は、第二等國となるの常で、ウンガールン愛蘭、波蘭、若くはムーア民族驅逐後の西班牙等がこの適例である。ウンガールン

は南方から、愛蘭は東方から、波蘭は東方と、時に北方とから千五百九十八年以後の西班牙は國外の領土に對してのみ防備を要するに過ぎなんだ。然るにチューダー朝幷にウイリヤム三世時代の英國は如何にと見るに、北方には蘇格蘭人あり、南方には西班牙人若くは佛國人あり、西方には愛蘭人あり、常に隙を伺つてたのである。メロヴィンガ王統の晩年以來、佛國は歐洲大國中で最も防備に腐心した國で、海陸兩方面より常に强敵が之に壓逼を加へたので、佛國の人心をして活潑敏捷ならしめ、政府をして中央集權に傾き、咄嗟の急に應じ易からしめた、之を以てガリア民族、ケルト拉丁民族の特色に歸せしめんとするは徒勞である。最後に後方地帶(ヒンターラン)の政治地理的狀態が重要事件に大影響を及ぼすことは爭はれぬ。外寇の防備に忙殺さるる民族は、多數の外人が渡來して混住するが爲に却て利益を受くるのである。外人は團體的に來る者も單身で來るものも、歴史上有力なる要素となつたことが數々ある。其の外人たるの分限より自から精力機智に於て土着の人士を凌ぎ、剩へ之が短所を免ぬかるゝことが出來る。第二流國は多數外人の來住によりて煩はさるゝことはないが、又益を受くることもない。外人は歴

史上至大の勢力を示したことが多いので、英國史に於ては上はウィリヤム、ザ、コンカラーサィモ・シ・デモントフォルトより下はウィリヤム三世、デスレーリに至るまで、佛國に於ては上はヨークのアルキン、スコタス、エリジエナより下はマザラン、ナポーレオンに至るまで、墺國史に於ては上は瑞西ハプスブルヒのルードルフ、サボアの親王オイゲンより下は伯爵ボイスト、伯爵アンドラッシーに至るまで、露國史に於ては上は瑞典出身のルーリックより下は獨逸出身のエカテリイナ大帝に至るまで何れもその國の爲めに貢獻したことは想像以上である。カンニンガム教授は英國の經濟史に及ぼせる外人の影響を論じて、織物業も、海運業も、鑛業上の改善も、鐵器の商業も、農業も、その他事業經營上の新施設は、一切外人のお蔭を受けてるのである、要するに中古の時代を通じて、我英國は孤立して居つたが爲、歐洲諸國に後れて居つたが、來住者の媒介によりて進歩せる文明國と觸接し、之に就て習得し得たのであると云ふてる。(Alien Immigrants to England, 1897, p. 293) 佛國に於ける外人の影響も亦著るしいので今日でも百萬人以上の來住者を數へてるが、この移住の大勢は中古に溯ても毫も今日に異ならず中古の初期に於ける三大僧派は何れも佛國に起つたが、而も外人を開祖とした、是は敢て偶然の事實ではない、キョルンのブルーノ聖師はCarthusiansをドーセットシアのスチーブン聖ス師はCistercians、をウエストファーレンのノルベルト聖師はPremonstratensiansを建てたのである。外人が新來者の精力を發揮して以て、彼の國防の必要なきの國家に於て、其不振の域に陷らんとするを妨げ得たるの適例としては、云ふまでもなく米國を推さざるを得ぬ。猶太民族も亦外人の實力を示し得可き歴史上の一例で、人爲的猶太民族たる耶蘇會徒は十二分に之を實現するの組織を具へてる。且又地方人士が都會に移住して、田舍漢たる外人的新身分を以て、民族の歴史に旺盛なる新進の元氣を注ぎつつある の事實を忘れてはならぬ。佛國革命の領袖は悉く地方人士である、英國の二大偉人シェクスピーア、ニュートンは共に地方人士である一二の例外はあるが羅馬の文豪も亦概して地方人士である。(地方人士都會移住の影響に付てはGeorg Hansen, Die drei Bevölkerungsstufen München 1889, p. 407を參看せよ)以上の事實は皆地理上の影響の大なることを證明するものであるが、歴史はすべて地理によりて說明し得可しと思うてはならぬ。人は主として精神的生物である、而して地理的要素の物質

的影響は、敷ば精神的原因によりて壓倒さるゝことがある。

歴史に大影響を與ふる第二の原因は、農業、工業、商業によれる財貨の生産分配である。社會主義者カール・マークス、經濟學者アキル・ロリア歴史家カール・ラムプレヒトの如きは、社會上の階級の異同は財貨分配の成果で、その相互の確執が卽ち歴史を構成するのであると唱えてる。何れの世でも財貨が權勢を左右するには相違ないが、この所謂唯物派歴史家の誤謬は歴史に及ぼせる經濟上の原因の勢力をその原因の主要の位地を占めたりし時代にのみ限らぬからである。西歐に於ける中古初期、卽ち六百年から千五十年迄の歴史は、主として少數者の所有に歸せる大采邑の勢力の沿革であるが、他の時期に於ては經濟上の要素は歴史に關係を有するものの、その程度が低いのである。例へば希臘、羅馬の昔に於ては財貨の經濟的生産分配は奴隷制度の行はれたが爲め重要視されず、隨て經濟上の要素は歴史の大事件に關係することが少なかつた。西洋民族史の發端に際しては、通商貿易によりて貨財を生ずることは、主ら地理上の地位の成果で、低廉なる交通に便する江流、内海の存否は國の貧富を定めたのである。若し多腦河が黑海に注がずして多

島海に吐けたなら、バルカン半島の民族は雄飛し得たであらう。歐洲史は地中海岸諸國の發達に淵源し、内海長江、良港を制するの國は駸々として隆運に向ひ、この種の交通の便を缺けるの國は浮む瀨がなかつたのである。萬國貿易の孔道は亦通史の舞臺であつて、アルペン山脈の東部、北部は南北に流れてアドリアチック海に入るの江河なかりしが爲め、その西部よりも進歩が遲々として居つた。

經濟上の原因は又社會上の各種の階級を生ずるに與て大に力あるもので歐洲史上の靜的現象中、最も重要なるものの一とも云ふ可き、彼の人民の分れて貴族、中等社會、農民の三層を組成せることの起因は、主として經濟上の原因、卽ち財貨の分配如何によれるのである。併し各國の階級間に自から相違の存するのは、卽ち純然たる經濟上の原因以外に他の原因の存在することを示すものである。例へば中等社會に就てのみ云ふも、英國のミドル・クラッスと、佛國のブールジョアシーと、北獨逸のビュルガーと、墺國のとはその精神上社會上の態度が驚く可きほどに相違してるので、英國の中等社會の心意氣を佛國の中等社會に豫期するのは甚だその當を得ぬ。歴史家は須らく自國の中等社會の特色を養成せしめた經濟上その他

諸般の原因に就て時間と空間とを顧慮して精究す可きである。獨逸の W. H. Riehl の Die Naturgeschichte des Volkes als Grundlage einer deutschen Social Politik (4vols 1894, etc. 9th ed.) は獨逸の中等社會の研究に向て新生面を開いた傑作である。歐洲列國に於ける中等社會の異同てふこの根本問題が一度明かに解決せられたなら、隨て種〻の難問も亦之が結果として説明の便宜を得ることになるであらう。例へば何故英人が音樂の名手を出さぬかと云ふ宿題も、音樂の技術は中等社會に於てのみ移植され得ることに注意したなら、その解決に向て一歩を進め得たのである。音樂の形式、種類の異同は中等社會の情緒の性質、分量の相違に基くので、大陸の中等社會は確かに英國のよりも多情多感なので、大陸の音樂が英國のよりも早くから盛んに發達したのは怪むに足らぬ。ウンガールン人と西班牙人とがともに音樂を嗜むこと深きにも拘はらず、作曲の大家を出さぬのは、矢張眞の中等社會が十分に發達して居らぬからである。

歴史の第三の大要素は男女の關係である。希臘人、羅馬人の間に行はれた一夫一婦制は歐洲史の根底を構成せるものである。婦人は間接的大原因で、男子の經營した事業を助成もし破壞もする唯その影響が間接的なのであまたの歴史家に顧みられなんだのである。八百年から千三百年迄の中古の史實の判然せぬのは、當時の唯一の史料が表面獨身生活を守つて職掌上婦人の間接的影響を無視して居つた僧侶の筆に成つたが爲である。併し歴史上婦人の勢力は偉大なもので例へば佛國史の如きはその婦人に負ふ處男子に負ふ處と毫も徑庭がないのである。且又婦人は家族の中心、家庭の女王で、家族の靜的勢力は能く社會の動的勢力に對抗し之を管制し得るのである。家庭生活、私的生活は亦人民の娯樂に對して至大の關係を有してる。ライプニッツは曾て人は眞面目な仕事に於てよりも、却て遊戯に於て機巧を示すものであると云ふたが、今日に至るまで娯樂の研究は極めて等閑視されて、未だ熱心に遊戯の心理を研究した學者は無い。併し一民族の遊戯娯樂にして明ならば、その民族の他の心理も自から容易に了解され得るのである。婦人によりて主ら社會上社交上の快樂を享くる國では、男子の發達は甚だ遲いので、英國が最近三世紀間に於てその人口の割合よりも多數に、二十歳そこ〳〵から老成の丈夫を輩出せしめたのは、英國の婦人が佛伊兩國の婦人の如く、男子の慰み

物にならなかつた爲である。ウィリヤム・ピットは決して例外ではない、第十八世紀の初に方りて英國は佛國の三分の一に足らぬ人口を有するに過ぎなんだが、英國の二十歳以上の人物は既に堂々たる丈夫であつて佛國に於ける三十五歳乃至六十歳の人物に劣らなんだ。第十八世紀に於て英國が古今未曾有の成功を收め得たのは、一はかくの如き眞因があつた爲である。娯樂より受くる滿足は、之に關係する人々の階級の相違の大なる程激甚となるもので例へば英國でゲームの盛んなのは一は社會上のあらゆる階級が之によりて交り得るからで、獨、墺兩國で舞踏會の盛んなのも理由は同じく、同じ催でも四民平等な米國よりも快樂を享くることが深いのである。カール・ビュッヒャーが論じた樣に、遊戯娯樂先づ起りて節奏を調へ眞面目な事業は之に就て大に學ぶ處があつたので、人間と云ふものは之より快樂を享け得ぬ迄も、なほ且娯樂を工夫せんとするものである。であるから一國の歷史を研究せんとするものは、活眼を以て之が娯樂を調査し、以て國民の心理を明にせなければならぬ、蓋し娯樂の種類ほど民族間に於て相違するものはない。民族の娯樂を研究するの必要は又人間社會の制度發達上無聊に苦む閑人の至大の意義を有するからである。ジョン・ジ・ルロア、殊にアウグスト・コムトは人間社會は絶えず生活の單調を免ぬかれんと焦慮するものであるとて、この點に就て注意した。併し彼の十字軍が當時無趣味な居城に蟄居して脾肉の嘆に堪えず、而も俗界の政事に與るの意氣込を缺いて居つた士族の存在に、幾何の關係を有してるかは、未だ充分に説明されて居らぬ。

歷史を構成する主要な動力の第四に位するは、歷史的人物である。希臘人が、アテネ果してテミストクルスを造りしか、將た又テミストクルス果してアテネを造りしか、との名高い問題を提出してから、時勢對人物の關係は、數は歷史家哲學者の研鑽を經たが、概して全問題の最も重要な要素を忽諸に附したやうである、卽ち時間と空間との要素これである。人物も亦歷史上の他の原因と同じく、時間と空間との特殊の條件によりて左右さるゝので、人物に付ても又その歷史がある、卽ち時と處とによりて天授の英傑が實際國民全體を統御し、指導し、國民の行働は全然その人物の意志を遂行するに過ぎぬ場合もあるのである。例へばプロイセン史で、近年までプロイセンの民が政治上に於て極めて遲れて居つたとしたならば、大選擧

候(一六四〇—一六八八)フリードリヒ・ウィルヘルム一世(一七一三—一七四〇)フリードリヒ大王(一七四〇—一七八六)幷にビスマーク公の偉大な勢力を認めざる譯にはいかぬ。加之國によりては建國の抑もよりその存在其ものが、既に偉人と密接な關係を有してるものがある。上古に於ける都市的國家、降て羅馬舊敎會幷に舊敎の大僧派等がその實例である。之に反してハンザ都市の如き他の國家は、毫も偉人と相涉るとが無い。往時は民心を收攬し得るの英傑は、自から國家を建設するとを得たが、降ては大僧派の如き附屬的國家を興し得るのみとなり、更に千四百六十年乃至千六百三十四年迄はウォーリック伯の如く僅かに帝國(キング)の廢立者(メーカ)たるを得るに止まり、第十七八世紀に及んでは大宰相となり、更に降て第十九世紀に及んでは國民統一の代表者と變じた。であるから人物てふ歷史的名辭は單純な哲學上の一概念を示すことは出來ない、手段と目的とを異にして活動せる種々の個人的勢力を指せるので、民族の異同國家の性質、政治上の氣運、政治地理的事情をも問はずして一概に人物に付て論ずるは、脩辭上からは兎も角、史學に於ては不都合である。西紀前第五世紀のアテネに於ては、之を同第二世紀の羅馬に比するに、自

動的(ジェクチーブ)人物の威望權勢は遙かに盛んであつた。アテネを造つたのはテミストクルスであつた、勿論アテネは必ずやテミストクルスを出す可きであつたが。スパルタのリクルゴスによりて造られたのは、宛かもCarthusiansがブルーノ聖師によりて創められたと同じく確かな事實でリクルゴスと云ふ律法家の存在を否定するはフリードリヒ大王の存在を否定すると同一で無法である。抑も人物には人物の地理學と紀年學とがある。と云ふのは敎授ハルナックの論破せるが如く、中古の希臘敎の僧侶の間には到底羅馬敎に於て輩出せしめたる彼のダンスタン聖師、トーマス・アキイナス聖師等の名僧知識に匹敵し得可き人物を生ずることが出來なんだ。歷史上に於ける人物の問題は極めて專門的であるが故に、哲理的概論によりて之を解決するは困難である。毫も人格の見る可きものなき斗筲の輩も、能く名を竹帛に垂るゝとがあるかと思ふと堂々たる人物が落魄して志を遂げ得ぬ例が多いのである。佛國のギイス家、オルレアン家の人物には事、志と違ふて意外の失敗を招かざるものなく、才貌双美と歌はれたるメリー・スチユアートも亦母方のギイス家の薄倖を襲ふたが、平凡なその子は英蘇愛三國の王として崩御するを得

たではないか。

歴史的人物の成功と失敗とは、聊か謎のやうなものであるが、之を以て歴史家の無能を晦ます遁路としてはならぬ。博學な正式の歴史家は得て昂々然として眉を揚げて、史上に於ける人物の重要なることを誇張し、以て史實の原因のうちに就きて、之よりも却て捕捉し易く分析し易きものを、指摘し得ざることを、缺點と心得ざるの常である。即ち七年戰役の原因はと問へば、フリードリヒ大王である、即ち完全なる解剖的研究を試み得ぬ人物と云ふ要素であると斷じて、無能の歴史家を庇護し、有爲の歴史家を却て非難せんとする。蓋し各國を漫遊して實物印象(アンシャウウングン)を受けたことのない、書齋的(アムーチエーア)學究的歴史家(ヒストーリアン)は滚々たる思想の泉を汲み得ざるが故に、歴史的解釋を試みて科學的研究を行ひ得ぬのである。科學でも、藝術でも、その歸着する處は斬新にして正當な撮要(アベルスー)を提供し得しや否やと云ふ點である。思想が缺乏してると言はるゝが嫌さに、歴史家の多數、殊に伯林派に屬する人々は、史實の主たる原因は人物にありと主張する、これは人物の問題は結局、曖昧模糊の裡に葬らるゝので、反對論者にして如何に賢明でも、その解釋に大差ないことを知つてるから

である。かくて嚴かに當該人物に對して倫理上の審判を試み、道義上の評論を下し、以て我事了れりとなす、その審判の結果は勿論、その博學なる歴史家の社會上の境遇に依て定まるのである。故に無暗に歴史上の名士に攻擊を尙へ、イソクラテスはデモステネスよりも優れて居ると云ひ、オガスタスはケーザーよりも遙かに偉大で且重要であると評し、ブロイセンの愚直で氣障なフリードリヒウィルヘルムを崇めて「思ふに近世に於ける最も重大なる歴史的人物ならん」(エヅアルト・マイヤー)と奉つてる。氣の毒ながら、かゝる歴史家はその生涯中曾て眞面目に史學の原則と研究法とに思を致したことがないのである。苟も誠實に不屈不撓の意氣込で如上の問題と奮鬪し、之に關聯せる無數の參考書を漁り、熟續翫味、沈思熟考した後更に之を實際の事例に適用せんとした人は、ドロイゼンや、ラングロアや、エヅアルト・マイヤーが、際物的に起草した歴史研究法に瞞着さるゝ事はない。が公衆は這般の人士が撰述した、浩瀚な史籍を見て、かゝる歴史家こそは斯學の原理に付てオッソリチーたるに足るの斷定をなし得る程、博引旁搜したことゝ信ずるのである。博引旁搜は或は之れあらん、而もその研究は粗末なものである。眞の歴史上の見

識は生命ある實地の知識によりて養成さるゝもので、中古の庵室より出でたる年代紀作者と同じく、書齋に蟄居してるものには、兎ても望み難きものである。その見識の淺薄な證據には、人物の勢力偉大なることを極言しつゝ、最も實際な、最も切要な歴史的人物の存在を數ば否定する。ブロイセンのフリードリヒ・ウィルヘルムの一世が、近世史の最も重要なる人物の一人なりと斷ずるその歴史家が、獨逸歴史家の大多數と共にリクルゴスの存在を否定してるのである。丁度ナポーレオンの蹉躓は、リヴプール郷の功業だと斷じて置いて扨ナポーレオンの存在を否定せんとするやうなものである。マイヤー一輩の歴史家の議論は純然たる言語學的のものである、その識別せる唯一の實物、即ち言語を金科玉條とせるの議論である。言語は勿論緊要な史料であるが、これが研究に耽つたとて歴史家にはなれぬ。言語學的歴史家は博學ではあるがその著作は歴史にはならぬ。その史筆は以て能く、ヘッセン・カッセルかメクレンブルヒかその他の專制國の歴史を、四六版の小冊子のうちに傳へることは出來るが、これは歴史と云う程のものでない。而して希臘とか羅馬とか佛國とか英國とか云うやうな、政變極りなき活躍的國民の歴史を

敍することは、その到底企及し得ざる大事業である。

大國民にありても勿論偉大なる人物の勢力を認むることが出來る。が併しこの分拆的研究の困難な歴史上の要素も亦他の説明し得可き原因によりて充分掣肘さるゝので、例へばテミストクルスか、エパミノンダスかを解釋するのは不可能であるが、併しテミストクルスの事業がテーベの名士の事業に先づこと四世代で、且遙かに不朽の性質を具へたその原因に至りては、明瞭に分拆し得ぬでもない。天禀その物も歴史的に説明し難いものではあるものの、母方から云ふてテミストクルスが純粹のアテネ人でないと云ふ事實は、國難に際して外人が却て遺憾なく手腕を發揮し得る原因に合ふのである。であるから人格と云ふ怪物も、時に史眼の高い人に遭ふては眞相を曝露さるゝことがある。政治地理的、經濟的、社會的影響に加ふるに更に家系的研究と云ふ探照燈を借り來りて、人物の問題を照し出したならば、その不可解の範圍も大に減ずることであらう。戰爭の上に於ける、將た、外交の上に於ける大人物の事業に於て、殊にかく云ひ得るのである。

戰爭と外交との成功せると否とが、國民の運命に至大の關係を有することは爭は

れぬ。用兵上の成功は、地理上の狀態によりて左右されはするものの、主將の才幹と好運とは最後の勝敗に與つて力があるのである。併しをしなべての人格の場合に於けると同じく主將の場合に於ても、最後の勝敗を才幹好運よりは遙かに說明し易き原因に求むることが出來る。例へば千七百九十六年乃至千八百十三年迄の間に於て、墺國が遂に能く佛國に當り得ざりし理由、大公カールを初としてボーリユー、ウルムザー、アルヴィンチー、メラス、マックの諸名將が遂に能くナポーレオンの軍隊を擊退し得ざりし理由は、之を說明することが出來る。墺國には何時も名將が澤山あつたが、庸才も亦絕えなんだ、それで何時も庸才を主將にして、名將を之が下に立たしめた。卽ち墺國相續戰役には有爲なトラウンは無能なロートリンゲンのカールの制令を奉ぜしめられ、七年戰役には拔群なラウドンは却て優柔不斷なダウンの麾下に立たしめられ、革命戰役當時には大公カール父子は概して要路に用ゐられず庸劣の輩が司令官の重任に當つた。換言すればザット二百年來墺國では司令官の任命法を過つてるのである。して見れば墺軍の勝敗を說明するに困難な問題は直接戰鬪に際して主將の人物が幾許の影響を有してたかと云ふ點にのみ歸着する。歷史家は須らく新なる側面映出(サイドライト)の法を用ゐ、若くは新なる相依相從關係を指摘して、戰爭に及ぼせる人物の影響てふ難問を一層縮少する事を努めねばならぬ。大外交家に就ても同樣で、殊に近世史の場合に於て然りである。歷史家のうちには多寡が外交家の手腕で、歷史上の大事業を成し遂ぐる抔とは無理な注文だと云ふものがあるが、是は勿論僻說である。外交家は曾ては歷史を造つたので、第十七世紀でもその大部分を造つたのである。例へば佛國のハンリ四世が法院長ジアンナンを使節として和蘭に派遣せなんだなら、その結果は非常に違つたであらう。その他師父ジョーセフ以下、ボムポンヌに至るまでの佛國外交家の成功を見るとリシユリユーの時代から千七百、八十九年迄、外交家が佛國の運命に大影響を與へたことは云ふ迄もない。併し之に反して大使や外交官の勢力を失つた時代に就て、その意義を誇張するは失當である。例へば第十六世紀のヴェネチアの大使は機敏で堪能であつたものゝその報告を金科玉條として當時の事件を評隲するは如何かと思はれる。現代の外交官も、通信機關の發達した結果、殆んど本國政府の代理機關となつてしまつたので、又往日の如く有力なる位

地を歴史上に占むる譯にいかぬ。將軍の場合に於けるが如く、外交官の場合でも、歴史家たらんものは事實に就て斬新な相依相從關係を發見し、以て曖昧模稜な人物の問題を闡明せねばならぬ。

最後に或る時代に於て、或る民族に於ては、歴史を構成する勢力のうちにその國民が誠實に確信し、熱心に希望せる幾多の理想を數へねばならぬ。現代の經世家のうちで最も冷靜沈着なビスマークも、之を不可量物（イムポンデラビリア）と名けて、その勢力を認めた。併し人物の場合に於けるが如く、理想の場合にも亦常に歴史の根本要件たる、時間と空間とを忘れてはならぬ。例へば第十九世紀の前半に於てはアマデー、チエリー一派の歴史家は、西紀八百四十三年のヴエルダン條約の當時、既に獨佛兩國民は、各各その國民的理想を自覺して居つたと說いたが、これは全然謬見で、當時の人民にかゝる理想抔とは思もよらぬことであつた。併し之と同じく千八百七十年の戰役に於ける、獨逸の國民的理想の勢力と影響とを否定するのも不都合である。以上の五要素が相依相從關係によりて歴史を構成する主要のものである。或は純然たる知識上の勢力、卽ち思想、知識、科學等を何故忽諸に附して數へ擧げぬかと云ふ人があるかも知れぬ。知識は實に人類光榮の母で、進歩は知識に淵源すると云ふ人があるかも知れぬ。我輩とても敢て知識の進歩著大なることを否定せんとするのではない。唯歴史は知識の進歩から構成されぬと云はんとする。實に歴史は情緒と意志との成果であつて、理性は常識にせよ、學識にせよ之に與り得ぬ。歴史は隨て論理的でない。歴史を演出する感情は、有史時代に入りてよりさまでの變化なく極めて保守的のものであるが故に、個人と民衆との正確な心理學を歴史の事件に適用するならば、科學上哲學上に於ける人類事業の研究は、之を主たる歴史の範圍外に置くことが出來る。文學や美術、取り分けても宗教は理性よりは寧ろ感情の成果であるから、深く歴史家の注意を要するのである。歴史の上ではパスカルの Lettres Provinciales はピ・イ・ド・ドームで行つた晴雨計の實驗よりも大切である。知識は歴史の上では第二流の從たる現象で、歴史上の事件の大勢を左右するよりも寧ろ之によりて左右さるゝのである。宗教改革はルッターが主唱したので、博學聰慧なエラスムスの事業ではない。

更に歴史を構成せる五原因に就て、その性質を稽査するに政治地理的、經濟的、社會

的、理想的の四要素は比較上に規則正しく靜的であるが、第五の人物は不規則に變し易い。思想の豐富なデカルトは、幾何學で横線縱線の難問を解釋するに方り、古人の墨守した直接正面攻擊の方法を棄て、間接方法を用ゐて成功し、諸般の科學者も之に倣ふて何れも好結果を得たが、歷史家も亦歷史上の横線縱線、卽ち歷史を構成する五原因の研究に際して、同一の手段に由る可きである。ケプラー、デカルトは頗はしい直接觀察の方法に代ゆるに、迅速に出來る間接推步の方法を以てしたので、何れの科學もこの研究法の進步を經たが、史學も亦ケプラー出でたる後の星學と同一の程度に進まねばならぬ。不備な史料の稽査以上に一步を進めて、間接方法を應用せねばならぬ。歷史研究上の間接方法とは、旣定の事實に基きて心理上の結論を下し、以て直接證明し難き事實を間接に立證するのである。併しこの結論を下すには、豫めあらゆる歷史上の縱線横線を研究せねばならぬ。假りに政治地理上の要素を顧みず、若くば人物の勢力を無視したならば、事件の曲線とこの縱線横線を揃へずして推步した曲線とは吻合せぬことになる。でこの歷史上の要素の相依相從關係を定むるの方法は、勿論文物制度を異にした各國に滯在して、直接之を經見し、練習を重ね、熟練を積み、且技倆を具へねばならぬが、歷史上の要素の何れをも等閑視するの不可なるは云ふを俟たずして明白である。

歷史を構成せる要素に就ての以上の研究に於て、一般に之が重要なる要素と認めらるゝものを漏したとの非難は、定めて起ることであらう。其うちでも人種は第一に數へらる可きもので英、米、佛、獨諸國の士女は通例自國の雄大なるは、人種天賦の偉大なるが爲なりと確信してるのである。英米ではアングロ・サクソン民族の優勝を唱え、佛國では拉丁民族の優勝を信じ、獨逸ではチウトン獨逸民族の優勝を自負してるのである。併し伯爵ゴビノーが最も有力に主張した歐洲人種優勝論は疾にバックルを初として、あまたの歷史家、人種學者によりて辯駁せられたのである。例へば一萬人の人民が一團をなして同一地方に住し、三世代若くば六世代の間、その境遇に實際の變化がなくば、自から身體上に、精神上に、共通の特色特徵を生ずることとなる、併しこの特色特徵は永久不變のものでもなく、不可解な人種の性質に基くものでもない、上述した歷史上の五大原因に歸着するものである。懶惰な怒り易い愛蘭人も、米國に於ては勤勉な莊重な人物となり、遲鈍で唖辯な英人も、

米國に於ては能辯で神經質なヤンキーとなるのである。四圍の境遇よりも歴史その物が人民の性質に強く影響することが少くない、英人の人相を目睹すると、ヘースチングスの役、マグナカータ、無敵艦隊、英蘭銀行、トラファルガーの戰等の歴史上の事實があり〳〵と讀まれる。這般の史實は人種、風雨、寒暑等よりも遙かに大きな影響を英人に與へたのである。要するに英人の性格は、この國土が有形上に島國的であるが如く、精神上に於ても島國的でこれは二千年來前後幾多の外國人が渡來して、大陸的半島的性格を維持しやうと試みたその歴史上の事實の成果である。人種論のうちで最も普通で最も間違てるのはユーデ民族は萬古變せずとの論で、是ほど事實と違つてるものはない。目下歐洲には少くも波蘭のユーデ、墺國のユーデ、西班牙のユーデ、露國のユーデ、レヴァントのユーデの五種があつて、五種各々異てるが上、鼻も頤も別に不變の形を傳へてる譯ではない。それに中古の時代にはユーデ民族はあまたの異民族を吸收したので、彼の東南露西亞に蟠踞してビザンツ帝國をも苦めたチャザール民族の如きは、第八世紀に猶太教を奉じてより習慣上にも亦ユーデと化して了つた。且又ユーデの特色の同一なること時に認

めらるゝことありとて、必ずしも人種論の理由とはならぬ、と云ふのは彼の耶蘇會徒は各種の民族から組織されてる團體であるが三百年前にイグナシャス聖師の定めた思想を墨守し教育制度を保存してるが爲、今日でも一種の共通的特色を失はぬヒユームも曾てこの例を見て人種の性質の萬古不易なりとの議論を駁擊するに足ると喝破したことがある。系譜の研究をした人は西歐の名家舊族何れもさま〴〵の先祖を有し、我輩等の先祖には國王もあれば乞食もあると云ふた系圖學者の諺の無稽ならぬことを認めざるを得ぬ。之に反して列國の高貴如何と見ると、各國民の血統を傳へざるものは幾んど稀なりと云ふ可く、獨逸帝室の如く、先祖のうちに微賤の人物を數へるのもあるのである。

歴史家は社會上、歴史上の現象は物質上、精神上、諸要素の相依相從關係の結果であると信ずるのに、歐米の所謂人類學者、人種學者、人種誌家は頭形、頭蓋角、髮色等の觀察を基礎として、歐洲四億の民を三種、六種、九種若くば十二種の人種に區別するので、其所説を聽いては忙然自失せざるを得ぬであらう。クアトルファージュ、デニカー、トピナール、ヨットランケ、ウイルヒョー、ベッドー、セルヂ、リプレイ等の諸學者は人々の

身體上の特色を研究して、系統の立つた、人體外形學（ソマトロジー）を構成せんとし、身長、髮色、兩眼、色澤、頭形等に關して澤山の觀察を試みたが、それらの外形よりも、遙かに民族の特徴と認む可き生理上の一要點に氣付かなんだ。一要點とは音聲の調子である。聲音を甄別するの聽官を備へた人は、佛國人の佛語と、キアナダ人の佛語、英人の英語と、米人の英語との間に、抑揚聲調自から異ることを感ずるであらう。音聲は兩眼の表情を除いては、最もよく人民の特色を示すもので、近來發明の寫聲機は之が研究を容易ならしむるであらう。これを以て見ても人類學者の使用せる材料の不充分なることが明白であるが、史學にして一層の進歩を遂げなば、人種に萬古不變の特色ありとの空想は仆れ、特徴の認む可きものありと雖も、そは境遇の變ずると共に變ずるものであると證明さるに至るであらう。米國で生れた獨逸人の子女は、外形上にも、精神上にも、獨逸人の特色を存しない、米國の獨逸人にして果して音樂家として傑出せるものありや、大哲學者の聲價を博せしものありや。一體人種論の謬見を抱くは、人種か、境遇か何れかのうちで說明しなければならぬと信ずるからである。人種論を否定せば迚、境遇論で悉く說明を下し得可しと云ふのではない、人民の有形上、道德上、知識上の特色は氣候、山脈、食物、飲料等の影響以上に超絕せる諸要素の成果であつて、之を說明せんとせば彼の歷史の五原因の相依相從關係、その陰に陽に相殺するの事情を繹ねゝばならぬ。例へば佛人はその國土食物の感化を蒙つたには相違ないが、併しその羅馬の法制を襲用せしとや、私生活の單位を英國に於けるが如く個人に置かずして家族に置けることや、婦人の勢力著るしくして子女をして顏面の筋肉を盛んに動かし而相を變ぜしむるに至ることや、その非常に節儉であること等の影響が遙かに强いのである。一體節儉な民は心理上希代にも快活なもので、微笑し洪笑することが多いから、隨て顏面下部の形相を變へ、兩眼の運動力と大さとをも變へるのである。

以上の相依相從關係を研究すれば人種論に依らして佛人の特色を明瞭に了解することが出來るが人種論はこの研究を不必要となすもので、歷史家の研究を始めんとする處は、卽ち人種論者が之を終れる處である。健全な心理學によりて歷史の眞要素の相依相從關係を迚らんとはせず、人種論者は單に名稱を擧げて之で滿足するのである。實に人種論は主として言語上の所造物である。言語は何れも

太古に語根を有してるが、言語學的研究を好む歴史家は、國民も亦太古よりの根源とも云ふ可き人種的特色を有するものと信ずるのである。加之、人種論は自から優勝民族なりと自惚るゝ人民の好む所で、而もこの種の人民は減じさうに見えぬ。併し民族と人種とが何等の關係なきものたることは、人種論者も亦自認する所である。兎に角人種の思想は事實に於て何等の根據をも有せぬから、責任を重んずる歴史家は疾に之を唾棄し去つたのである。

歴史上の事件の眞因として認められたものゝうちで、人種に次いで最も廣く信ぜらるゝは、宗教である。併し政治社會の狀態が夙に幼稚の域を脱した人民の間にあつては、宗教は歴史上の事件の根本の原因と認むる譯にいかぬ。宗教は政治上社會上諸勢力の假託である、裝飾である、成果である。次に君主制、共和制、寡頭制等の政治組織の形式を認めて、歴史の主因となすことも亦不都合である。先づ第一に形式その物は誤解の種子である、神權制もその實は極端な民主制であつたり、寡頭制もヴェールを撤すれば數ば帝王制である。形式は藝術に於けるが如く政治に於ても亦その實を暴露すると共に陰蔽するので、例へば羅馬若くは英國の憲法を研究するものが表面に現はれた制度にのみ拘泥して、裏面の運用を顧慮せなんだなら、小供らしい誤謬に陷るであらう。且又政體其ものは一國民の政治的、社會的狀態の發端ではなくてその歸結を表示したものである。卽ち米國の共和主義は千七百七十六年七月四日附の文書で定められたのでなく、夙に米國人民の社會上の同種同權に基してるのである。歐洲では佛國が稍や之に近く、英國が政治上に於て同權と云ひ得可きのみで、その他の諸國は王室を奉戴せずんば各種の階級より成れる人民の歸着點を失ふことになるのである。歐洲の住民をして思想に、行爲に、實際劃一の狀態に陷らしむれば王室は自然に消滅するであらう。併しかくの如く歐洲を米化することが果して好ましきや否やは疑問である。歐洲の住民が悉く同一樣に賃銀勞働者と資本家との二階級に分れて了つた曉でなければ、歐羅巴は敢て米國の理想とする所に近かうと努めぬであらう。否却てジューセッペ・フェラリが廣く歴史に就て評したやうに、益々その各局地の專業に向て進むことであらう。タルド氏は歴史上の現象は多く模倣力に基くと云ふたが、制度や事件の多くは相比隣せる民族の自覺的比較力に基くもので、互に正反對の法律、習慣、政

策を見るの常である。で歐洲は米國の隣國であるから、この比較力の動作で、歐洲は、米國と正反對の制度を採用するやうにならうも知れぬ。要するに何れの立脚地から政體の影響を觀察しても、政體は歴史の主因にあらずして寧ろ從たる結果なりと結論せざるを得ぬ。

數學界に於ける二つの思想

福澤三八

數學は多くの他の學問と同樣に古より次第に發達したるものである極く簡單の加算及び引算も數學の一種又三角形四角形圓形等の形に就きての如何なる幼稚の知識をも幾何學の初步の考とすれば數學思想の起りは實に古き事である斯くも起りの古き數學思想が紀元前五六百年より暫く一種の學問となり爾後年と共に發達した千六百年より千七百年の間にはデカートの解析幾何學の發見ニユウトン及びライブニッツの微積分の發見がありた是より數學は長足の進步をし又其應用も非常に增し終に近世に至りガウス、リーマン、ワイエルストラスなど云ふ數學の大家出で己が天才の欲するまゝに研究を成した其結果數學なる學問は愈々むづかしきものとなりたが數學の進步は決して之にて止まらず年を經るに從ひぼつ〳〵新き事發見せられて居る此後又數學の難關を破る一大天才出でたらば數學なる學問は如何程發達するか知れ無い斯の如く數學は時と共に次第に發